

# ★ 葬儀屋さんに聞く



左 右

尾崎 尾崎  
オサキ タカ ユキ オサキ マドカ  
誉幸さん 円さん

(弟) (兄)

29 31  
歳 歳

近年の都市部では、僧侶や神職を導師として要請する従来からの葬儀に急激な変化が出てきているようです。

導師を必要とせず、また宗教的でもなく、故人を偲ぶ為のお別れ会のような形が徐々に増え始めている状況でありながらも、僧侶である私は敢えて委縮せず、仏教の意匠性を説きながらより積極的に葬儀に関わって参りたいと考えています。

そういう訳で、今回は地域密着型であり且つ私と同世代でもある枝川葬祭さんにお話を伺うことで、葬儀に関わるもの同士の意識を高め合い、また想いを深め合うという大変意義深い交流が実現しました。

巨万の投資回収の概念で動く大手企業とは異なる、『町の葬儀屋さん』ならではの良さややりがいをお聞きしてきました。

**問** この仕事で初めて葬儀にあたらせてもらった時は正直泣きました。それも自分は全くその方のご生前を知らなかったのですが・・・。

**答** それもその一回きりじゃなくて、兄がこの仕事に就いて間もない頃はちょくちょく有って、そんな時は兄をカーテンの中にコソッと追いやっていました。(笑)

元々は祖父がこの波川で大工さんをしていたのですが、そこから石材店を起こして伊野納骨堂という屋号になり、その葬祭部ということで当時事務所が免許センターの近くにあったので枝川葬祭という名前になりました。

**問** そして現在ここに『つむぎハートホーム紬』という会館を構えさせてもらって、枝川からここへ事務所を移した今になっても名前は枝川葬祭のままですが、最近では『紬さん』という名前です。(笑)

**坊** 夜間でさえ気が抜けないようなイメージがありますが、お仕事はどんな流れですか？

**答** やはり、先ずはお電話を頂くと深夜であっても病院へお迎えに上がります。そして以前はそこから保清の処置をさせていただいていたのですが、最近では病院の方でエンゼルケアという形でお化粧まで施して下さっている場合が多いです。でも、時にはご高齢の女性でチークが物凄く濃く塗られていたりして少し不自然な場合はこちらで手直しさせてもらったり、男性の場合はお髭を剃ったり、顔色があまり良くない場合はこちらでより生前に近い自然な風に、と場に合った処置をさせていただきます。

**問** 10年近く前に納棺師にスポットを当てた『おくりびと』という映画が話題になりましたが、その時は半年間ほどいろんな葬儀の度に御遺族からあんなふうにして欲しいというお声を頂きました。でも我々葬儀屋は納棺師ではなくて、納棺を含めた会場の設営であったり司会進行であったり行政への手続きであったりと、葬儀全般に携わらせてもらっています。もちろん納棺の研修も随時行っていますが。

**答** ですから、私も涙腺が緩い方なんですけど最初の頃は緊張が上回っていましたね。司会のスピーチや特に御弔電なんかでは普段読み慣れない漢字や個人様の氏名など間違わずに読むことで必死でした。中でも仏式と神式による違いや、いろんな宗派のよって別れている細かな違いなど、時には尋ねやすい和尚さんに添削してもらったりして苦心しながら今に至っています。

**問** 最近でこそ、御遺族と葬儀屋という違いを意識して、当たり前なんですけど我々は主役じゃなくてあくまで裏方という意識で務めさせてもらっています。でもその一方で、昔祖母から言われた「亡くなった人は自分の家族と思って大事に接しなさい。」という教えもずっと胸に刻んでいます。

**坊** 普通の会社であれば笑顔で接客というのが常識なんですが、葬儀屋さんに限っては笑顔が憚られることのほうが多いですね。

**問** 確かに時と場所と状況に応じて御遺族とどう接するかということは大変気を遣いますね。実際にあった事ですが、御親族に冗談好きな人がおられて打合せの折に不意にわざと面白い事を言われて、不謹慎なのですがその時は泣いてしまいそうになるのとは逆に笑いを堪えるのに必死でした。(笑)

**坊** 逆の状況もあるんですね。(笑) では、やりがいをを感じる時は？

**答** 何気ない言葉なんですけど、全て滞り無く済んで「ありがとう。」

と、言われた時はいろんな迷いや悩みが報われる瞬間ですね。

**坊** では、最後に枝川葬祭さんならではの強みを教えてください。

**問** やはり地元ならではのだからできる、葬儀後の49日やお盆のお手伝いなどのアフターケアでしょうか。お電話でも結構ですが、直接お出で下さるとより詳しく親身になって相談に乗らせていただけます。

